

読書は生きる力と安らぎを

松添京子

——本とわたし——
287

読書について改めて考えてみると、食事と同じように私にとつては、心の栄養のようなものかもしれない。本の内容も若い頃から見ると自分なりの、心の歴史のようである。若い頃は『嵐が丘』『大地』『風と共に去りぬ』『赤と黒』等の外国文学が多い。

移動図書館のお陰で、いつの間にか随分と、色々の本を読んでいる。もう二十年以上利用させていただいているので、今ではすっかり生活の一部になっている。どうしても作者が偏るので、いつの頃からか、題名、作者、年月をメモしている。時々見なおしてみると、内容と共にその頃の事等が思い出されて、日記のような役目もある。題名を見ただけで強烈に印象に残っている本は、山崎豊子の『沈まぬ太陽』。この時は自分も正義に燃えるような興奮を覚えたようにある。東野圭吾の『手紙』では、最後の十頁程は涙で文字がかすむ程の感動、と記している。浅田次郎

の『椿山課長の七日間』は、自分も亡くなつた人と思う時あちらの生活を想像したりするので、おかしくもあり、もの悲しくもあつた。最近では、吉川英治の『新・平家物語』に老眼鏡を新調して挑戦、読み終えた後は、しばらくの間、他の本を読む気力も無い程、心は平家物語の世界に浸つた。この物語中、文覚と西行に興味を持ち、その後五木寛之の『親鸞』に出会い、時代や人間関係の繋がりが次々と広がっていく時、心が躍るし読書の醍醐味を感じる。電車に乗る時には『徒然草』のような随筆を持つ。忙しい中の乱読ではあるが、気持が萎えそうになつたり、迷いの時、どの本かの人物の生き方、言葉が浮かんできて、生きていく上の道標べになつていく。年令と共に、若い時にはない理解や味わいも読書の妙味となり、この先、どんな作中人物に出会い、想像もつかない世界で遊べるか楽しみは尽きない。活字や情報があふれている現代、一日の終わりのひと時、物語に浸り、やがて眠りにつくこの安らぎは何物にも勝る至福の時である。

(石海)

新着図書紹介(ノン・フィクション)

2010. 9

書名	著者	出版社	請求記号
ビジネス書大バカ事典 第一版	勢古 浩爾	三五館	019
『純粹理性批判』を噛み砕く	中島 義道	講談社	134.2
対談評釈イエスの言葉/禅の言葉	上田閑照 八木誠一	岩波書店	193
古文書の語る地方史	佐藤 孝之	天野出版工房	210
満州の情報基地ハルビン学院	芳地 隆之	新潮社	222.5
ヴェルサイユ宮殿に暮らす 優雅で悲惨な宮廷生活	ウィリアム・リッチー・ニュートン	白水社	288.4
評伝大村はま ことばを育て人を育て	荻谷 夏子	小学館	Bオオ
兵庫歴史探訪ウォーキング	ペンハウス	メイツ出版	291.6
世界史の構造	柄谷 行人	岩波書店	304
リベラリズムと正義の限界	マイケル・サンデル	勁草書房	309.1
今だから言える日本政治の「タブー」	田原 総一郎	扶桑社	312.1
なぜ自爆攻撃なのか イスラムの新しい殉教者たち	ファルハド・ホスロハヴァル	青灯社	316.4
原爆の記憶 ヒロシマ/ナガサキの思想	奥田 博子	慶應義塾大学出版会	319.8
憲法がめざす幸せの条件 9条、25条と13条	日野 秀逸	新日本出版社	323.1
はじめて読む「成年後見」の本	馬場 敏彰	明石書店	324.6
ブラジル日本移民百年の軌跡	丸山 浩明	明石書店	334.4
ちっちゃいけど、世界一誇りにしたい会社	坂本 光司	ダイヤモンド社	335
認知症ケアは地域革命! 「地域福祉館藤井さん家」の取り組み	牧坂 秀敏	現代書館	369.2
恐竜・古生物ILLUSTRATED よみがえる陸・海・空の覇者たち		ニュートンプレス	457.8
光るクラゲ 蛍光タンパク質開発物語	ヴィンセント・ピエリボン	青土社	464.2
進化の運命 孤独な宇宙の必然としての人間	モリス・サイモン・コンウェイ	講談社	467.5
ドングリの戦略 森の生き物たちをあやつる樹木	森廣 信子	八坂書房	479.5
ファーブルが観た夢 地球生命の不思議な迷宮	森 昭彦	ソフトバンククリエイティブ	486
フンころがしの生物多様性 自然学の風景	塚本 珪一	青土社	486.6
カラスの自然史 系統から遊び行動まで	樋口広芳 黒沢令子	北海道大学出版会	488.9
頭骨コレクション 骨が語る動物の暮らし	福田 史夫	築地書館	489
モグラ おもしろ生態とかしい防ぎ方	井上雅央 秋山雅世	農山漁村文化協会	489.4
数覚とは何か? 心が数を創り、操る仕組み	スタニスラス・ドゥアンヌ	早川書房	491.3
脳梗塞からの“再生” 免疫学者・多田富雄の闘い	上田 真理子	文藝春秋	493.7
さらば厚労省 それでもあなたは役人に生命を預けますか?	村重 直子	講談社	498.1
余部鉄橋物語	田村 喜子	新潮社	516.2
鉄道の顔 国鉄・JRの名車両	石井光智 松本典久	学研パブリッシング	536
スマートグリッド解体新書 動き出した巨大産業と企業戦	日刊工業新聞特別取材班	日刊工業新聞社	540.9
仕事にすぐ効く魔法の文房具	土橋 正	東京書籍	589.7
トースタークッキング 1人分が得意!	葛 恵子	講談社	596
今日の献立らくらくレシピはじめての子育てごはん	加藤 初枝	金の星社	596
はじめてみませんか布おむつ&おむつなし子育て	岸下 未樹	主婦の友社	599.2
「食料自給率」の罨 輸出が日本の農業を強くする	川島 博之	朝日新聞出版	611.3
ハーブ祝祭暦 暮らしを彩る四季のハーバル	北野 佐久子	教文館	617.6
幸せレストラン農家レストラン 農家レストランの開業と経営手法	高桑 隆	同友館	673.9
草色のギャラリー	谷川 晃一	みすず書房	704
かけっこが速くなる1週間おうちレッスン 3才~10才のうちに! +なわとび・さかあがり		主婦の友社	782.3
瀬戸内ひょうごの海釣りトラの巻	高崎 冬樹	神戸新聞総合出版センター	787.1
数になりたかった皇帝 漢字と数の物語	円満字 二郎	岩波書店	821.2

書名	著者	出版社	請求記号
浅草のおんな	伊集院 静	文藝春秋	イジ
原稿零枚日記	小川 洋子	集英社	オガ
ストーリー・セラー	有川 浩	新潮社	アリ
クロエとエンゾー	辻 仁成	小学館	ツジ
さくらの丘で	小路 幸也	祥伝社	シヨ
老里島奇譚 いちりじまきたん	梶尾 真治	祥伝社	カジ
ヒコベエ	藤原 正彦	講談社	フジ
先生のあさがお	南木 佳士	文藝春秋	ナギ
チベットのラッパ犬	椎名 誠	文藝春秋	シイ
そのころ、白旗アパートでは	伊藤 たかみ	講談社	イト
市立第二中学校2年C組 10月19日月曜日	椰月 美智子	講談社	ヤズ
勝手にふるえてろ	綿矢 りさ	文藝春秋	ワタ
紅葉する夏の出来事	拓未 司	宝島社	タク
祭り囃子がきこえる	川上 健一	集英社	カワ
年下の彼	小手鞠 るい	河出書房新社	コデ
声出していこう	朝倉 かすみ	光文社	アサ
本日は、お日柄もよく	原田 マハ	徳間書店	ハラ
Iターン	福澤 徹三	文藝春秋	フク
炎天の雪 (上・下)	諸田 玲子	集英社	モロ
ほら吹き茂平 なくて七癖あって四十八癖	宇江佐 真理	祥伝社	ウエ
とまどい関ヶ原	岩井 三四二	PHP研究所	イワ
新徴組	佐藤 賢一	新潮社	サト
天主信長 我こそ天下なり	上田 秀人	講談社	ウエ
天佑、我にあり 天海譚戦川中島異聞	海道 龍一朗	講談社	カイ
舞灯籠 京都上七軒幕末手控え	蜂谷 涼	新潮社	ハチ
本朝金瓶梅 西国漫遊篇	林 真理子	文藝春秋	ハヤ
引かれ者でござい 蓬莱屋張外控	志水 辰夫	新潮社	シミ
鏡の偽乙女 薄紅雪花紋様	朱川 湊人	集英社	シユ
尼子十勇士伝 赤い旋風篇	後藤 竜二	新日本出版社	ゴト
白砂	鏑木 蓮	双葉社	カブ
特異家出入	笹本 稜平	小学館	ササ
誘拐犯の不思議	二階堂 黎人	光文社	ニカ
禁猟区	乃南 アサ	新潮社	ノナ
世界でいちばん長い写真	誉田 哲也	光文社	ホン
嗤うエース	本城 雅人	幻冬舎	ホン
悪道	森村 誠一	講談社	モリ
忘れない忘れない	渡辺 やよい	早川書房	ワタ
ドストエフスキーとの59の旅	亀山 郁夫	日本経済新聞出版社	カメ
新懐旧国語辞典	出久根 達郎	河出書房新社	デク
現代語裏辞典	筒井 康隆	文藝春秋	917
半分のぼった黄色い太陽	チママンダ・ソグズィ・アディーチェ	河出書房新社	Fアデ
楽しい私の家	孔 枝泳	新潮社	Fコン
奪い尽くされ、焼き尽くされ	ウエルズ・タワー	新潮社	Fタワ
黙禱の時間	ジークフリート・レンツ	新潮社	Fレン

王さまの竹うま

ドクター・スースとくえ

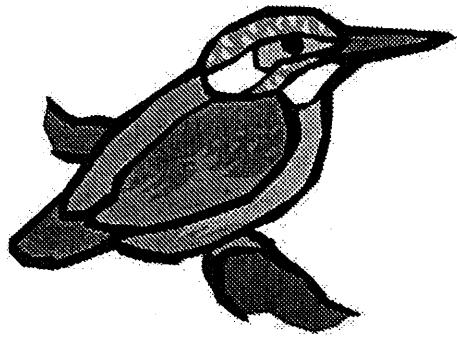
わたなべしげおやく(偕成社)

バートラム王は、海から王国を守る堤防並木の世話に朝早くから働かなければなりません。木の根を食べる鳥を千匹の猫に見張らせ、自らも木を一本ずつ調べます。王様の唯一の楽しみは、仕事の終わった夕方に、竹馬で城を駆け回ることでした。

ある日、王様の竹馬遊びを快く思わない家臣が、竹馬を盗み出しました。王様は元気をなくし、仕事に力が入りません。猫たちも怠け始めました。鳥が並木の根を食い荒らし、海の水が町に流れ込んできました。王様を心配したお小姓のエリックが竹馬を取り戻しましたが、家臣に追われ王様に近づけません。エリックは仕立て屋に飛び込み、帽子とガウンと竹馬で背高のつばに変装し、王様のもとに駆けつけました。

黒の濃淡と赤のみの絵が、竹馬にや、登場人物の表情をいきいきと伝えます。読んでもらえば五歳から楽しめます。

(竹内)



このページは子どもたちにすすめたい本をとりあげています。本を選ぶときの参考にしてください。

子どもの本だな 123

鷹は昼狩をしない

スコット・オデル作

犬飼和雄訳(ぬぽん児童図書出版)

十六世紀初頭、ヨーロッパの宗教改革を背景とした物語です。

少年トムは、おじのバートン船長を手伝って、貿易船でロンドンとヨーロッパの港を行き来していました。ある時トムは、ドイツから、宗教改革者ルターの書いたパンフレット二百冊余りを密輸入し、その買い手を捜すうちに、ルターに賛同しているチンダル牧師に出会いました。チンダルは、一般のイギリス人が聖書を読めるようにと、聖書の英訳に取り組んでいましたが、当時それは禁止されていて、見つければ命はありませんでした。身の危険を感じたチンダルも、トムと船長は自分たちの船に乗せてドイツへ逃亡させ、チンダルの聖書が印刷されたら、イギリスへ運ぶことを約束しました。けれども、国王のスパイや裏切り者により、船長は捕らえられ、チンダルも異端者として裁判にかけられました。トムは、チンダルの聖書をひそかにイギリスへ運び込み、約束を果たします。少年トムを通して、この時代に生きた人びとに会い、生活や信条を知り、時代の息吹を感じることでしよう。十三歳くらいから。

(芦田)

お知らせ

講演会のお知らせ

講師 齋藤惇夫さん (児童文学者)
 「子どもの本の魅力について」
 日時 10月16日 (土) 午後2時から
 場所 あすかホール 研修室
 定員 100名 (申し込みは不要です)
 『冒険者たち』の作者であり、長年児童書の編集にたずさわってこられた齋藤さんに子どもの本の尽きせぬ魅力を語っていただきます。

わらべうたを楽しむ会

講師 近藤信子さん
 日時 10月25日 (月) 午後2時から
 場所 あすかホール 中ホール
 定員 60名 (申し込みが必要です)
 大人の方が対象です。実際に体を動かしてわらべうたを楽しみます。

9月・10月の移動図書館(いずれも木曜日です)

9月	10月	10:30 ~11:00	11:10 ~11:40	14:30 ~15:00	15:10 ~15:40	16:00 ~16:30
2日	14日	塚森 公民館		福地 三反長 地域内	米田 公会堂	竹広南 公民館
9日	21日	岩見構下 公民館	岩見構上 公会堂	原池団地 公民館	山田 掲示板前	原 太田東地 区農村交 流センター
16日	28日	広坂 ポスト前	上太田 公民館	沖代 コミュニテ ィセンター	吉福 公民館	太子ニュー タウン 公民館

9月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
			✕	2	3	4
5	✕	✕	8	9	10	11
12	13	✕	15	16	17	18
19	20	✕	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

※22~30日は特別整理のため休館

10月の開館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	✕	✕	6	7	8	9
10	✕	✕	13	14	15	16
17	✕	✕	20	21	22	23
24	25	✕	27	28	29	30
31						

×印は休館、□印は午後1時まで開館。
 図書館は10時から開館しています。

9月22日(水)から30日(木)まで、特別整理のため休館いたします。10月1日(金)から開館します。ご迷惑をおかけしますがご了承ください。

<貸出期間を3週間に>

9月8日(水)から9月19日(日)まで、貸出期間を3週間にします。

地下水

児童室では、月ごとにテーマを決めて展示を行っている。折り紙作品などと一緒に、関連する絵本や物語、知識の本を集めて置いている。普段は目立たない本を、手にとってもらおう絶好の機会なので、色々な本を集めてくるのが楽しい。この展示に欠かせないと思っているのが、「たくさんのふしぎ」(福音館書店)というシリーズ。多様なテーマについて書かれた知識の本である。絵本や図鑑に比べると、それほど貸し出される本ではないが、興味深いものが多い。

次回のテーマは「家」にしようと考え、不得手な工作に挑戦している。「イグルー」をつくる(あすなる書房)を参考に、イヌイットが建てる雪の家をクツシヨン材で再現しようとして試作品を作った。けれども、形はいびつで、隙間だらけ。こんな家では、寒い地域で暮らすことなどできない。どうやって改良しようかと頭を抱えている。

今なら、図書館のすぐ北側で、家を建てる様子が見学できる。社宅が取り壊されて更地になっていった土地に、色もデザインも様々な家が次々に建てられている。しばらく図書館周辺にいられている方は、景観がすっかり変わっているのが、驚かれるかも知れない。どんな人が入居されるのか、図書館を利用されるのか、とても楽しみにしている。(小西)